

聖火 歴史胸に走る

東京五輪の聖火リレーのスタートまで2週間で切った。新型コロナウイルスの影響で延期されてから1年。感染対策をとりながら121日かけ全国を巡る。東日本大震災で被災した大学生は、この10年の歩みを胸に走る。1964年大会に続き参加する人は再びの機運醸成を願う。感染状況によってリレーの形が変わる不安もあるが、走るときを待ち望む。

(佐藤淳一郎)

「東日本大震災の記憶や教訓を私たちの世代が伝えていく。聖火リレーでその決意を世界に示したい」。宮城県東松島市出身の東京福祉大2年、武山ひかるさん(20)は6月20日に故郷でトーチを手に走る。

2011年3月11日は小学4年生だった。校舎で突き上げるような激しい揺れ

宮城・武山さん

「力強く前に」伝承



自作した東日本大震災に関する製本前の絵本を手にする武山ひかるさん(群馬県伊勢崎市)

25日にスタートする東京五輪の聖火リレーは、約4カ月かけて47都道府県859市区町村を走る。大会は「復興五輪」を掲げており、出発地には東日本大震災や原子力発電所事故に遭った福島県のサッカー施設「Jヴィレッジ」(楢葉町、広野町)が選ばれた。約1万人のランナーが被災地の沿岸部や世界遺産、名所などを巡って開会式の7月23日に国立競技場(東京・新宿)で聖火がともされる。

大会組織委員会は2月、開催に向けた新型コロナウイルス感染対策の指針を公表した。リレー予定地が緊急事態宣言の対象となったり、不要不急の外出自粛が要請されていたりする場合公道の走行を見合わせ、

聖火リレー、沿道は拍手で応援

過度に密集なら中断も

聖火の到着を祝う会場で点火式のみを開催する可能性がある。

組織委はランナーに対し、実施2週間前から密集する場所への外出や会食を避けるよう求めている。体調記録シートの提示も必要になる。走行時は一定の距離を保つとし、マスク着用は不要とした。感染防止策に従わない場合、リレーへの参加は原則認めない。沿道で密集が起きる可能性がある著名人の走行は、中止を含めて計画が見直される。

密集を避けるため、組織委はインターネット中継の視聴を推奨している。沿道で見える場合はマスクを着け、大声を出さずに拍手などで応援するよう求めた。過度な密集が生じれば、リレーを中断する措置も想定する。

に襲われた。高台に避難後、母親といたん車で自宅に戻ると車は黒い波に漬かり、死も意識した。実家は全壊し、友人らも亡くした。

た。街ががれきで荒廃し、家屋に船が乗り上げた光景が頭を離れない。高校生のとき、地元の語り部グループに加わった。

震災ツアアのガイドや全国各地での講演で震災の経験を伝え、大学進学で群馬県に移って以降も活動している。3月上旬には、津波で両親を失った友人がモデルの絵本「ひとりじゃない」を完成させた。

リレーは被災地に支援の手を差し伸べてくれた国内外に感謝を伝える場と思う。多くのボランティアが吹き出しに駆けつけ、海外からも衣類などの物資が届いた。「何千キロ離れた国も気にかけてくれ、大きな心の支えになった」。

大学卒業後は学んだ精神保健福祉分野を生かし、子どもを支える職業に就くつもりだ。コロナ下の聖火リレーに「命を最優先にした運営」を望みつつ、「力強く前に進む姿を届けたい」と意気込む。